

## 10. 編集後記

排水処理センターは2004年4月1日組織上総合化学実験センターの傘下に入り、総合化学実験センター排水処理センターとなりました。業務内容は今までと変わりはありません。この環境保全の編集も排水処理センター運営協議会で引き続き行うことになりました。今後ともご協力をお願いします。この経緯については、田頭センター長に報告してもらいました。また、排水処理センターでは矢吹義文技官が3月末に転出され新しく4月1日から渡部武志技官が就任されましたご活躍を期待しております。

一方で、山口大学が法人化して約半年が経ちました。法人化に伴い、大学内では昨年度から安全管理への対応が行われております。今回の山口大学環境保全20号では、特集を「山口大学の安全衛生」としました。そこで巻頭言を山口大学の安全衛生対策について人事労務担当副学長河合伸也先生に書いて頂きました。また、医、理、工、農学部の労働安全委員の先生にそれぞれの学部の安全衛生対応について原稿を書いて頂きました。排水処理センターの業務も排水および廃液の管理の点から安全管理に深く関わっているため、排水処理センターからも法人化に伴う対応に関する事について原稿を書いて頂きました。

解説、話題、教育、研究は、今年もインドネシアにおける環境問題と環境保全政策、経済活動と環境、地球の温暖化防止について、核医学診療におけるRI廃棄物処理、騒音環境管理、学校における子供たちの健康管理等、それぞれの立場から身近な環境および社会現象、人間の活動に対する批判の話題についての原稿を頂きました。これらを読むと改めて、多くの身近な環境について再認識させられました。

昨年度からの各学部の建物毎に実験排水をモニターするpH計が稼働しました。その後の経過について設備の概要および実験排水のpH測定結果について原稿を頂きました。計画通りpH計が設置され、pH監視体制が整備されつつあります。一部の学部ではpH異常実験排水の流入が頻繁に起こっている結果が示されています。環境保全に対する意識の向上が望まれます。

終わりに、原稿を執筆いただいた教職員及び学生、また編集作業に貢献をいただいた田頭排水処理センター長および排水処理センターのスタッフの皆様に深く感謝いたします。

平成16年12月4日

編集委員長 井上 誠